

6月の声を聞くと、いかな北海道でも初夏である。朝、ところによっては小雨がばらついたため、原先生は御愛用のバイクを断念され、地下鉄、バスと乗り継いで見えられた。10時50分、溪流口駐車場横の休憩所には、総勢22名が集った。

原先生のご挨拶のあと、五十嵐氏のご案内でアシリベツの滝へ向う。植栽のキレンゲツツジが満開だった。観察会の最初の光栄によくした野草は、アブラナ科のコンロンソウだった。白花をつけた佇まいは楚々として美しい。続いてクサノオ、オンバ、ムカゴイラクサ、ミヤマトウバナを学習する。舗装された遊歩道沿いは、ハルニレ、オニグルミ、モイワボダイジュ、ホザキナナカマド、オオバボダイジュ、サワシバ、イタヤカエデなどの落葉広葉樹が新緑の樹冠をなしている。又、林床には、ツルネコノメソウ、ミヤマベニシダ、オオバタネツケバナ、オオバセンキユウ、タチイヌノフグリ、コウライテンナンショウ、オオチドメなどが見られた。

アシリベツの滝の中ほどに黄色の花が見えた。双眼鏡を出して代わる代わる眺めていたが、どうもオオバミゾホウズキらしい、と原先生のお話で

あった。国立滝野公園の目玉アシリベツの滝を見て全員引き返す。レストランの近くまでもどってお昼となった。

午後はずまず不老の滝へ向う。どうして不老なのだろう。しかし、誰も明解には答えてくれなかった。途中、あまり人の通らない山の斜面ぞいで、ヒメスギラン、クシロワチガイソウ、ナンブソウ、コミヤマカタバミ、ニシキゴロモ、ノミノフスマを観察する。クシロワチガイソウは私にとり生れて初めて出会った野草である。

次に、鱒見の沢へ向う。公園内の厚別川をはさんで河川敷にシバザクラが今を盛りに咲き、道道御料線をはさんで見える山には頂上付近に赤いヤマツツジが咲いている。あらためてこの公園のすばらしさを知った。時間の都合で鱒見の滝までは行かずに、途中で引き返したが、イヌエンジュ、シユウリザクラの木本や、フデリンドウ、ホウチヤクソウ、ヒトリシズカ、クルマユリ、そしてクリソウを観察した。

再び溪流口の駐車場横にもどり、原先生のご挨拶があって解散した。天気もよく会員各位の表情も満足そうであった。



ヒメオドリコソウ
Lanium purpureum June 1962

路傍や草地などに咲く白い花のオドリコソウを見ると、花の蜜を吸って遊んだ子供のころと、信州の山村が目にかぶ。わすれまじきふるさと、である。

ピンクの花のヒメオドリコソウは、欧州原産の帰化植物である。「明治二十六年（一八九三）東京駒場ニ於テ検出」というから、一〇〇年近くもたっている。にもかかわらず札幌で目につくようになったのは戦後のことである。

わが庭にも侵入して来たが、急激な繁殖もせず、邪魔にもならず、可愛いので放置しておいた。

六月初め、路傍のをコップに挿してホームの食堂に置いたら、可愛い、といって人気があった。

「草木スケッチ」九八八

岩垂悟より